

①背景

- ・離島へき地小規模校、歴史と伝統があり地域と密着した行事に子どもの参加が望まれる、地域は学校への愛着があり協力的である、継続して子どもや学校を支えてきている
- ・平成16年校舎一体型、平成18年小中一貫教育指定校（近年の教育内容の量的・質的充実への対応、児童生徒の発達の早期化に関わる現象、中1ギャップへの対応、少子化に伴う学校の社会性育成機能の強化の必要性）
- ・平成20年代後半、我が国を取り巻く危機的状況（少子高齢化、学校統合、グローバル化、雇用環境の変容、地域社会の変容、経済格差の進行、地球規模への課題等）
- ・宗像市第2期小中一貫教育の新たな展開→平成30年4月県内2校目の義務教育学校開校（1年目改革期・2年目充実期・3年目定着期と位置づけ→義務教育の可能性は未知数として義務教育学校の強みを生かしたカリキュラムの確立と実践）

②現状

- ・義務教育学校2年目で成果と課題が見えてくる（小中の垣根が更に低くなる、教職員の意識向上、保護者・地域の理解が深まる：別紙参照）
- ・子どもたちの現状→学力テスト等の結果：学力をはじめ、**語彙力と学びに向かう気持ち**の育成必要
- ・児童生徒アンケート結果：**探究心、想像力、忍耐力、実践力、目的意識**の育成必要
- ・県及び宗像市の人的物的支援と義務教育学校カリキュラムにより、きめ細やかな指導が充実（教科担任制、目標管理シート、授業改善、T2の実施等）と外国語教育が充実

③ゴール（3年目定着期）

「義務教育学校 宗像市立大島学園 学校教育目標」

大きな心で **しっかり**学び **何事にもまけない**子どもの育成

～一人ひとりが未来の創り手となる9年間を見通した鍛える教育～

1 教育目標の具現

- ・15の春を迎えるにあたって、「生き抜く力」を鍛える：資質能力をバランスよく育成する
- ・9年間の「学び」「成長」の連続性：教科担任制等しなやかなステップで教育を進める
- ・生徒指導、教育相談体制の充実：立ち向かう力「レジリエンス」を育成（教師のコーチング）

2 地域社会に開かれた教育の展開

- ・「大島ふるさと学習」の構築と実施：9年間で「島のよさを語る人」「島の担い手」を育成する
- ・「未来創造塾」：多様な方々（大島の人、外部講師）と関わり本物を学ぶ
- ・「英語教育OEE」：交流やフィールドを生かした英語のスキルアップを進める

3 学校の個性を確立

- ・「義務教育学校」：9年間のカリキュラムの編成と実施を進める
- ・「小中一貫のコミュニティースクール」：来年度実施へ向けてシステムの確立を進める
- ・「保小中一貫教育校」：保学連携（12年間の指導）の在り方を明確にする

④課題

- ・新しい時代に必要とされる資質能力の育成（重点目標）→子どもの学びを変化させる→教師の意識
- ・教師の授業改善推進（人材育成に効果的な研修等実施→研究部・市教委と連携、OJT）
- ・学習評価の改善推進→まずは周知理解→指導と評価の一体化
- ・新学習指導要領に準拠した学びの連続性の確立（縦と横のつながり）9年間と教科横断的視点
- ・大島ふるさと学習の構築「生きる力」「ふるさと創生」特別の教育課程→まずは整理を
- ・地域社会に開かれた教育課程（理念）とカリキュラムマネジメント（方法手段）の実現
→あくまでも資質能力を身に付けさせていくため効果的手段を考える→新しい学び方をイメージ
- ・特色ある教育活動「教科担任制・外国語教育・きめ細やかな指導・体験探究活動」を活性化
- ・僻地だからこそICTを→遠隔教育の実現
- ・児童生徒の減少による複式学級増教員削減 R2（4、5、3、2、10、2）（5+1、3、6）

⑤解決策

<大島学園パワーアッププラン>

OGプロジェクト「学園ビジョン10」

①「大島ふるさと学習」稼働システムの作成と実施

★これまで行われてきたふるさと学習や世界遺産学習等の実践を整理し、指導のコンセプト（基本的な年間計画、故郷アドバイザーとの連携）を明らかにする。次年度は、学校運営協議会「学校支援部」の設立と実践内容の「質」の向上を目指します。

- ・大島ふるさと学習カリキュラムの完成
- ・学校運営協議会「学校支援部」（仮）との連携・協働

②教科担任制を基にした、9年間一貫教育課程の完成

★昨年度は、6年生定期考査を実施した。本年度は、学習内容の先行実施を視野に入れた取り組みを目指します。

- ・専門教師による教科担任制の充実
- ・特定教科の9年間指導計画作成

③学園通級指導教室「チャレンジルーム」の開設と運用

★子どもたちの個々の成長を保障するための「学園通級指導教室」を開設する。多くの教職員の参画でチームを組み、一人一人の成長と学びを大切に「場」を創ります。

- ・個別学習（学びの困り感）への対応
- ・ソーシャルスキル：社会性の育成
- ・カウンセリング：メンタルヘルス

④大島学園英語教育OEE(Oshima English Education)

★特色ある教育活動のひとつである「OEE」は、これまで2年間実践を積み上げてきました。今年度は、OEEの仕組みを整理し、カリキュラムを完成させます。

- ・9年間一貫英語教育の仕組みの創出
- ・OEEと関わる行事の整理と発掘（大島紹介英語パンフ、修学旅行インタビュー、英検、スピーチコンテスト等）

⑤児童生徒交流促進

★積極性と表現力と人間関係力向上のため、これまで以上に他校・地域社会との交流を進めていきます。

- ・オリンピック聖火リレー等への参加
- ・大島来校児童生徒との積極的交流、お客様へのおもてなしの積極的実施

⑥大島学園ICT活用プランの実施

★光回線整備後、宗像市教育委員会より応援いただき、タブレット一人1台ずつ程度のタブレットが整備される予定です。毎日の授業はもちろん、学校行事や教育活動、地域行事にも活用の効果が期待されます。子どものデータ一括管理システムを構築し、9年間を一貫したICT教育を実現していきます。

- ・教職員の授業での活用を研修、家庭でのタブレット活用の検討
- ・子どもたちにたくさん触らせる機会の整備

⑦地域・家庭・学校の「連携と協働」

★大島ふるさと学習の実施に伴い、故郷アドバイザーと連携した組織を構築し、教育活動のコーディネートと協働を行い、経営参画への理解を得る。

- ・PTA組織仕事内容の改革
- ・学校教育活動・PTA活動の発信

⑧働き甲斐のあるチーム「大島学園」【業務の整備とメンタルヘルス】

★働き方改革推進リーダーを設けて誰もが働きやすい職場環境づくりに取り組みます。

- ・校務分掌の見直し、ラインスタッフ機能化
- ・スマイルディの実施、地域貢献への呼びかけ、レクリエーションの実施参加

⑨全教師の授業改善の促進

★特別支援教育の視点に立ち、アダプティブラーニング（個に応じた適性指導）を推進します。

- ・目標管理シートと研究推進活動との連動した仕組みの構築

⑩指導の基盤の徹底

★基本的な生活習慣の徹底と児童生徒理解の視点に立った指導を徹底します。

- ・大島スタンダード、五箇条教育（挨拶、掃除、歌、人権、故郷）、看届ける指導